腎・尿路系Ⅰ　2009年後期　本試験

1. 正しいものを選べ。
2. 腎臓の動脈は、糸球体、尿細管周囲で二度毛細管を形成する。
3. 腎臓の動脈分布は皮質部より髄質部に多い。
4. 動脈内圧の上昇に伴う筋原反応は、輸出細動脈より輸入細動脈が強い。
5. 尿細管－糸球体フィードバックにより、腎血漿流量(RPF)は一定に保たれる。
6. アンジオテンシンⅡのAT１受容体は、輸出細動脈に多く発現する。
7. 血漿浸透圧、血漿Na濃度について、正しくないものを選べ。
8. 血漿浸透圧は血漿Na濃度のほぼ２倍である。
9. 血漿浸透圧は、細胞外Na量と細胞内K量の２倍量を、体内総水分量で割った値にほぼ等しい。
10. 血漿Na濃度は、細胞外Na量と細胞内K量の和を、体内総水分量で割った値にほぼ等しい。
11. 血漿Na濃度の上昇により、細胞容積は一時的に小さくなる。
12. 血漿Na濃度は体液量の増加にほぼ比例する。
13. 酸塩基平衡異常について、正しいものを２つ選べ。
14. 呼吸性代償の方が、代謝性代償より速やかに反応する。
15. 習慣性嘔吐は、代謝性アシドーシスを生じる。
16. 高度な脱水は代謝性アシドーシスを伴う。
17. 酸血症では、H+が細胞内から細胞外に移動する。
18. アルカリ血症ではK+が細胞外から細胞内に移動する。
19. 高Na血症をきたすものはどれか。
20. 慢性腎不全
21. 肝硬変
22. 心不全
23. 尿崩症
24. ネフローゼ症候群
25. 脱水について正しいものを選べ。
26. 低張性脱水では、細胞内から細胞外へ水がシフトする。
27. 高張性脱水では、細胞外から細胞内へ水がシフトする。
28. 等張性脱水では、細胞内への水の移動はない。
29. 高張性脱水では、ヘマトクリット値が増加する。
30. 低張性脱水では、血漿浸透圧が上昇する。
31. 低K血症をきたす疾患を選べ。
	1. 慢性腎不全
	2. 溶血性貧血
	3. 腎血管性高血圧
	4. 副腎機能低下症
	5. 横紋筋融解
32. レニン上昇が確認される疾患を選べ。
	1. 原発性アルドステロン症
	2. (複製不可)
	3. (複製不可)
	4. Cushing症候群
	5. 片腎性高血圧症
33. 腎性尿崩症がきたす状態を選べ。
	1. 高Ca血症
	2. 高Na血症
	3. 低Na血症
	4. 高K血症
	5. 低K血症
34. (複製不可)

１０．35歳女性、水溶性下痢を伴い、倦怠感あるが、嘔吐はなし。尿は濃縮尿である。

この所見からみられる病態を２つ選べ。

1. 代謝性アシドーシス
2. 代謝性アルカローシス
3. 低K血症
4. 高K血症
5. 高張性脱水

１１．50歳男性、肝硬変による腹水治療のため、効力の強い利尿薬を服用していた。全身倦怠感、疲労、脱力、筋肉の痙攣を訴え、来院した。

効果の強い薬はどれか。

1. フロセミド
2. スピロノラクトン
3. アセタゾラミド
4. アミロライド
5. クロロサイアザイド

１２．作用部位はどこか。

1. 近位尿細管
2. 遠位尿細管接合部
3. ヘンレループの上行脚
4. ヘンレループの下行脚
5. 集合管

１３．倦怠感、筋肉の痙攣、疲労、脱力は何に由来するか。

1. 高尿酸血症
2. 低K血症
3. 高K血症
4. 薬物過敏症
5. 高血糖

１４．メサンギウム細胞の増生とは、１つのメサンギウム領域に何個以上の細胞が見られることをいうか。

1. ２個
2. ３個
3. ４個
4. ５個
5. ８個

１５．IgA腎症の組織学上所見はどれか。

1. Double coutour
2. Nodular lesion
3. Spike
4. メサンギウム領域の沈着物
5. 富核

１６．尿沈査で、赤血球変形と赤血球円柱が認められた。どの疾患が当てはまるか。

1. 尿路膀胱炎
2. 尿管結石
3. 糸球体腎炎
4. 糖尿病性腎炎
5. 悪性高血圧

１７．糸球体のチャージバリアの障害を主体とし、蛋白尿を呈する所見はどれか。

1. 膜性腎症
2. 膜増殖性腎炎
3. 糸球体アミロイドーシス
4. 進展した巣状糸球体硬化症
5. 微小変化型ネフローゼ症候群

１８．定型性悪性高血圧として鑑別診断の基準として該当しないものはどれか。

1. 収縮期血圧200mmHg
2. 拡張期血圧130mmHg
3. 急性腎機能障害(血清クレアチン5mg/dl)
4. 中枢神経症状
5. 眼底検査においてK-WⅣ度以上の所見、および鬱血乳頭が存在

１９．腎前性急性腎障害の検査結果として正しいものを選べ。

1. 尿中Na濃度 10mEq/l
2. 尿浸透圧　200mOm/kg・H2O
3. FENa　6％
4. BUN／クレアチン　5
5. 比重　1.002

２０．50歳男性。普段は、収縮期血圧120mmHg、拡張期血圧90mmHgであったが、ある日突発的に、収縮期血圧190mmHg、拡張期血圧110mmHgにまで上昇した。また、腎長径は、左7cm、右11cmであった。

診断において高値であるものはどれか。

1. アドレナリン
2. サイロキシン
3. レニン
4. ノルアドレナリン
5. 糖質コルチコイド

２１．水腎症に関して正しいものを選べ。

1. SFU分類を用いる。
2. 出生後、必ず手術を行う。
3. 診断において、必ずCT検査を行う。
4. 治療を行わず、放置すると、重篤な腎疾患を引き起こす。
5. 膀胱尿管逆流症を合併する。

２２、蓄尿、排出のメカニズムに関して正しいものを選べ。

1. 交感神経は膀胱体部に興奮的に働き、排尿を促す。
2. 骨盤神経は膀胱体部を弛緩させ、蓄尿を促す。
3. 大脳は、橋排尿中枢に抑制的に働く。
4. 下腹神経は外尿道括約筋の緊張を制御する。
5. 排尿時、膀胱内圧は上昇する。

２３．停留精巣について、正しいものを2つ選べ。

1. 出生後、すぐ手術する。
2. 全出生児の１％に見られる。
3. 低出生体重児では頻度が高くなる。
4. 1歳を過ぎた男児では、精嚢の組織の荒廃を認める。
5. 健常児に比べ、精巣捻転症の頻度が少ない。

２４．次のうち、正しいものを選べ。

1. WT遺伝子はWilms腫瘍の責任遺伝子である。
2. WT遺伝子の片側に変異が起こると、Wilms腫瘍が発生する。
3. Dewys-Drash症候群は、仮性反陰陽と腎不全を認める。
4. Fraiser症候群は、腎不全、泌尿生殖器形成不全、Wilms腫瘍を合併する。
5. Wilms腫瘍は、10歳以上に好発する。

２５．膀胱尿管逆流症について、正しいものを２つ選べ。

1. 腎盂尿管移行部狭窄症によって引き起こされる。
2. 診断には、排尿時膀胱尿道造影が有用である。
3. 尿管の蠕動運動の亢進が、もっとも大きな原因である。
4. 放置すると腎機能障害をきたす。
5. 外科的手術には、腎盂形成術を行う。

２６．前立腺肥大症について、正しいものを２つ選べ。

1. 薬物療法として、α１受容体遮断薬を用いる。
2. 抗アンドロゲン剤を用いる場合、PSAに注意する。
3. IPSS＜10では、経尿道的前立腺切除術が第一選択である。
4. (複製不可)
5. 前立腺癌が疑われる場合、レーザーによる線種組織の焼灼は禁忌である。